

清月記 SPECIAL対談 関口怜子さんが語る「女性の生き方」

第29回

独自のカリキュラムで、子ども達が自然・人・言葉とどう出会うかを大事にしなが「個性」を育てている、「ハート&アート空間 ピーアイ」の代表として仙台で活躍する関口怜子さん。その原点をお聞きしました。



「やりたいことを動いて見つけること」

「子どもが育つ環境をどう豊かにするか」

菅原 関口さんは、子どもの主体性と創造性を育むためのワークショップを運営されていますね。

関口 私の二大テーマが、子どもとどういるか、そして子どもが暮らすためのポテンシャルをどう上げていくか、子育て環境をどう豊かにするかなんです。

菅原 子育てを終えられても、子どもに関わっていらっしやるのはどのような理由からなんですか。

関口 今の日本では、子どもを育てるとき、ほとんど自由な外遊びをさせません。子育てに熱心であればあるほど、お稽古事に子どもを送り迎えしています。瞬発力とか、自分で自分の身を守ることは、自分で身に付けて育つ力を



菅原 裕典
すがわら・ひろのり
1960年宮城県塩釜市生まれ。83年東北学院大学経済学部経済学科卒業。83年名古屋・中京郵儀社入社。85年3月、父・清一とともにすがわら郵儀社設立。89年仙台メモリアルサービス設立、社長就任。2000年工ボックセンダイ設立、社長就任。01年社会福祉法人無量壽会理事兼社長就任。01年せんだい泉工場放送取締役。01年清月日記社長就任。10年宮城学院中学校・高等学校父母教師会会長就任。

体得していくもの。そこに人が関わりすぎると、子どもを受け身にしてしまいます。人間は、教わったように育つものなので、残念ですよね。

菅原 幼児教育と言うと、北イタリアの町、レッジョ・エミリアアプローチという教育が有名と聞いています。



1968年、七十七銀行の社員旅行で

菅原 具体的には、どのような幼児教育なんですか。関口 小さいときから個人

の自主性と協調性を育む教育法で、自分で考える力を養い、芸術でその子の感性を磨く環境作りです。

菅原 素晴らしい教育メソッドですね。関口さんのハート&アート空間ピーアイと理念が近いですね。

関口 仙台には高校や大学がたくさんあり、学都仙台と言われているわりには、子どもを伸ばす豊かな教育システムが少ないから。これでは、とても仙台らしさは育たない。創造性を育めずもつけない。小さい時は人間への信頼感を醸成する教育メソッドが大事です。人間は自分が財産です、自ら肯定感を持ってない人間を育ててどうするのでしょうか。

菅原 東北大学には各国から多くの研究者の家族が来ていますが、その子どもたちの



七十七銀行の社員、家族運動会で

「子ども時代の失敗は成功のダシの素」なんです

菅原 私は、砂場や川など可塑性のある場で自らが発見できる原体験が必要で思っています。この遊び・見立て遊ぶは、とても大切なことです。私の育った時代は、水道の蛇口は回すものと身体で覚えていたのですが、今は、手を蛇口にかざすだけで水が出てきたり、便座が自分で開いた、決してそれは子どもにとって良いことではなく、何でも面倒く

さがる子どもになってしまいう。完成されたおもちゃを預けられたら、子どもの感性は一つも磨かれませんが、大事な創造性が育ちません。

菅原 泉青年会議所時代に、静岡県三島市の「街中がせせらぎ事業」を視察しました。市内中心部にある水辺や自然空間を活かして、子どもたちが川の中を歩いたりして遊ぶようになっていきます。道路のガードレールもなく、すぐに川に入れるようになっていました。その川遊びで、ケガをすることも学ばずです。

関口 子ども時代の失敗は成功のダシの素といえますからね。

菅原 関口さんはいつも、お母さん方のようなメッセージを送っていますか。

関口 子どもを見守るといふことです。あなただけの子どもではないし、あなただけで育てるものでもありません。社会のものだし、その子どもなんなんです。あなただけで育てれば、あなたの世界でしか育たない子どもになってしまうことに気づいてほしいですね。

折々の表情が豊かで歴史も深く、隠れた魅力が一杯。三軒の武家屋敷があった1・8号が今では10・8号もあるんです。この西公園の自然の魅力を遊びながら再認識しようという、市民参加型の世代も幅広いプロジェクトです。



1990年9月、働く女性の地位向上を目的に設立された仙台BPWのメンバーと(前列左から2番目が関口さん)

菅原 私の長男は同じ会社で働いていますが、私が教育すると、私のクローンを作ってしまうことになる。ですから、できるだけ社員の皆さんから教育してもらうことが大事です。同じ考えの人ですが、それでも心地よいのですがそれは成長しないし、つまらない世界観になってしまふ。

菅原 最後は女性のためにメッセージをお願いします。関口 自分のやりたいこと

を、動きながら見つけて下さい。それは、あなたのために、あなたの未来のために、そして誰かのためにです。それを

一石三鳥と言っていますが(笑)。
菅原 今後もし活躍を期待してあります。



関口 怜子さん
せきぐち・れいこ

1946年(昭和21年)1月23日、宮城県登米市(旧中田町森)生まれ。丸森仲吾元七十七銀行頭取の妻・丸森豊子さんの妹。宮城学院女子短期大学家政科栄養士課程卒業。
●1966年七十七銀行頭取の妻・丸森豊子さんの妹。宮城学院女子短期大学家政科栄養士課程卒業。
●1966年七十七銀行入行。1969年4月、同僚の関口敬(たかし)氏と結婚。娘2人に恵まれるが、1974年敬氏が急逝。
●1978年2月、アートコミュニケーションセンター(学校法人ACC芸術学院に変更)入社。1987年12月、「ハート&アート空間 ピーアイ」を設立、代表に就任。1996年、早稲田大学専門学校都市のデザイン科でまちづくりコース修了。
●宮城県立子ども病院癒しの環境コーディネーター。宮城学院女子大学発達臨床学科(児童文化)非常勤講師。アートミーツケア学会理事、宮城県文化振興財団理事、西公園を遊ぼうプロジェクト代表

お仕事を持つあなたも安心。今話題のフリー・アフタースクール

詳しくはWEBへ
キッズデュオ 検索

年少~小4
学童保育
機能
+英語力

英語で遊ぶ、学ぶ
Kids Duo 上杉
Kids Duo 泉中央
Kids Duo 長町

0120-15-9908

清月記グループ